

1 単元 言葉で伝える技術 ～『君は「最後の晚餐」を知っているか』（光村図書2年）～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、説明文の授業において、筆者が最も伝えたいことを探す活動を経験している。ここでは、事実と意見の区別や、論理の展開に着目しながら、筆者の主張とその根拠を捉えてきた。このような子どもが、「言葉で伝える技術」においても、筆者の表現方法の工夫を分析し、それを自分の文章に生かす活動に取り組めば、文章によって自分の考えが伝わる楽しさや、筆者の表現意図により工夫された言葉の奥深さに気付くだろう。

そこで、単元を構想するに当たっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、絵と文章を対照させながら、筆者が何に着目し、どのように評価しているかを読み取ることで、筆者のものの見方や論の進め方を捉えることができる教材である。ここでは、自分が感じたよさを、より分かりやすく、そして効果的に伝える書き方を試行錯誤することが大切となる。そこで、「美術作品の魅力を伝える」というテーマで、読み手に新たな知見を与えられる説明文を書き、互いに伝え合う活動を設定する。子どもは教材文の構成や表現の工夫を見つけ、それを自分の文章に活用することで、子どもはより深く思いを伝えられるようになるだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 論の展開や技法などの記述の工夫について本文を基本に考える。そうすることで、表現方法を捉え、自分の思いを相手に伝える方法を追究できるようにする。
- 単元を通して、自分の書いた文章と教材文を比較しながら、より分かりやすく、説得力のある文章にするための構成の工夫を読み取る活動をする。そうすることで、自分の思いや考えを効果的に伝えるための表現方法を知り、それを自身の文章表現に生かせるようにする。
- 単元の終わりには、表現を工夫することで書き手の考えを正確に伝えたり印象付けたりするために、自分の文章を級友と相互評価する活動をする。そうすることで、本単元で身に付けた力を今後の文章作成にも生かしていこうとする姿勢を養うことができるようにする。

3 目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)ア
- (2) 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」

4 指導計画（総時数 5 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ①	○ 本文を読み、論の展開や表現の工夫に気付く。 ・ 筆者の主張 ・ 論の展開	○ 子どもたちが見つけた表現の工夫や論の展開について、グループやクラス全体で共有する時間を設ける。そうすることで、多様な視点を踏まえて読み進めることができるようにする。
二 ②	○ 本文にある筆者の工夫を「さぐり」、わかりやすい文章の書き方を捉える。 ・ 表現技法 ・ 論理的な思考力 ○ 本文を批判的に読み、文章を書く力を「みがき」、作文の準備をする。 ・ 多角的な視点 ・ 論理的な表現力	○ 「なぜこの表現が使われたのか」「この表現の意図は何か」などと問い、筆者の視点や意図に着目させることで、表現の工夫について捉えられるようにする。 ○ 「本文が評論文として適切か」と問い、批判的な視点で子どもが再度本文を読み直すことで、批判的に読みながら、本文に表れている筆者のものの見方や考え方について考えることができるようにする。
三 ② 本時 2 ／ 2	○ 既習事項を参考にしながら、「魅力」を伝える文章を書く。 ・ 表現方法の工夫 ● 論理的な文章構成か、書いた文章を相互評価する。 ・ よりよい叙述	○ 学習内容を振り返らせることで、表現を工夫して文章を書くことができるようにする。 ○ 相手からの評価に対して質問をしたり、詳しく説明を促したりするよう示す。そうすることで、自分の文章を客観的に読み直すことができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア)	①「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)	①積極的に自分の文章の改善点を見だし、学習課題に沿って意見を述べる文章を書こうとしている。
②抽象的な概念を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1)エ)	②「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)	②積極的に内容を解釈し、学習課題に沿って理解したことを説明しようとしている。

6 本時案 ー第三次・2時分ー

(1) 主眼 書いた文章を相互評価する活動を通して、表現の工夫とその効果について、級友からの助言や今までの学習を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができる。

(2) 準備 教科書、タブレット

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 書いた文章を読み、評価をする観点进行交流する ・ 叙述の工夫 ・ 評価の観点	ア 文章の順番に注目したらいいのではないか イ 使われている技法が効果的か考えたい	・ 文章を読むときの視点を共有させることで、その後の話し合い活動を焦点化できるようにする。	5
2 他者の文章を読み、評価をする ・ 表現の工夫 ・ 多角的な見方 ・ 文章構成	ア 「のだ」という強い主張を文末に多用することで、却って伝わりづらくなっている イ 用語について説明を加えることで、読み手にとって分かりやすさが上がっている ウ 最も伝えたい部分に倒置法を使うことで、読み手に印象づけることができている エ 最初に主張をもってくることで、読み手が書き手の思考を追うことができるようになっている	・ 子どもに自分の作文と他の人が書いた作文、教科書本文とを読み比べさせることで、知識として学んだ文章の工夫の違いに気付くことができるようにする。 ・ 相手からの評価に質問したり、詳しい説明を求めたりさせることで、自分の文章を客観的に読み直すことができるようにする。	35
3 自他の文章を読み、思いがより伝わる文章の工夫について振り返る ・ 文章の工夫 ・ 書くときの視点	ア 改めて文を述べる順番によって伝わり方が異なることが分かった イ 読み手に注目させたい部分に技法を使ったり、抽象的に述べた後に具体例を挙げたりするようにしていきたい	・ 単元の学びを具体例とともに振り返らせることで、今後も文章を読んだり書いたりするときに活用できるようにする。	50

(4) 評価規準と方法

子どもが書いた文章を相互評価する活動を通して、表現の工夫とその効果について、級友からの助言や今までの学習を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができたか、ノートや発言からみとる。

<メモ>